

令和6年度第4回市貝町学校規模適正化検討委員会会議録

1 日時

令和7年2月5日（水）

午後6時00分 開会

午後7時00分 閉会

2 場所

市貝町役場 大会議室

3 出席者

別紙名簿のとおり

4 欠席者

市貝町立小貝小学校 PTA会長：皆川 裕一

市貝町立市貝中学校 PTA会長：揚石 哲司

公募委員：大久保 知典

5 議事

ワークショップ

(1) 答申(案)について

6 議事の内容

1.開会

川上課長（進行）

2.委員長あいさつ

佐藤委員長【あいさつ】

3.議事内容 議事進行：委員長

○議事内容

(1) 答申（案）について

佐藤委員長

議事内容の第1「答申（案）について」を議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

事務局

【荒川係長説明】

委員長

事務局より説明があったが、ご意見・ご質問があったら、お聞きしたい。

委員長

令和6年度の出生数は、3月までの母子手帳の発行数で分かれますが、前年比に対して50%減となっております。そうしますと令和6年度の26人というのが、7年後の市貝町全体の小学1年生となります。

3ページの小学校1年生の欄を見てもらうと現在65人が在学しています。平成30年の出生数を見るとほぼ同じ数となっており、この子たちが1年生になっている状況が見えてくるわけです。

これから推計を見ていくと前回の推計値よりも格段に下方修正が掛かっています。このような時に子どもの教育環境をどう考えるかひっ迫してきました。例えば住宅誘致などで、住民数が変われば変わりますが、何もしなければこのままということになります。そのため、答申のためにどう進めていくのか、どう考えていくのかが必要。

委員

子ども達が減るということは前から聞いている。他の市町どこでも減っているが、危機感がなかった。これからどうしようではなく、若者がどれだけ市貝町に来てもらえるかの施策を考える必要があるので、町の執行部も真剣に考えていただきたい。芳賀町も同じような状況で、来年から住宅地を着工予定となっているが、市貝町は残念ながら、実行に移していない。今回、統合ということで皆さんと議論させて頂きましたが、議論の裏打ちをするためにも、もう一度学校統合の答申に子ども達が増える、若者に対する施策を考えていかないと厳しいと思います。

委員

令和6年度の出生数26人の学校別の内訳を知りたい。

事務局

赤羽小学校・小貝小学校がそれぞれ4名、市貝小学校が18名となります。

委員

赤羽小学校4人というのは私からすると衝撃。私が議員に立候補しようと思ったきっかけがこれになります。早急に方針を定めていただきたい。今回数値が出てきたのは今後を考えるうえでよかったと思う。執行部は大変だと思うが、老朽化や安全性が問われてくるので、子どもの環境を整える必要がある。

委員

出生数が減っているのが数値で見ると一目瞭然であり、本当に深刻な状態であると思います。前回の委員会の後、全員協議会の中でお話をしたところ、北海道出身の方が複式学級に通っていたことがあるそうで「子どもが減ったから、統合というのは...」と言っており、地域性にもよりますが、そういうことも考えなくてはいけないと思っておりました。しかし、今回の資料を見て修繕にも何十億もお金が掛かるので、悠長なことは言っていられないかなと思いました。

赤羽でもホープタウンができたときは、子どもがおりました。今はみどりの森があるため市貝小学校に子どもが増えています。しかし、そういったことは長くは続かないものです。それらを踏まえて移住定住促進事業の補助金額を今回上げてもらうことになりました。そういうことも考えてやっていかなければならぬ。

委員

私も資料に衝撃を受けました。特に令和12年で出生数が16人というのを見ると、今まま3校を残していくのは現実的でないかなと思います。統合するにしても小中一貫校や義務教育学校など選択肢があるかと思うが、きちんと想えていかなければならない。資料にもあるとおりアンケート調査を早急にやるべきだと思います。施設の老朽化等もありますので、来年度中にでも策定を進めていかなければいけない。危機感をもってあたっていかなければいけない。

委員

子ども達が少人数になることによって、教育が損う部分もある。ただ、町の考え方や地域の考え方によって、市貝町として小規模校に特化した学校で考えるのであれば、3校・2校残しでも良いのではないか。

アンケートを実施するかと思うが、保護者や地域の方、子ども達が対象になると思いますが、可能であれば教職員に対しても入れていただければと思います。

委員

市貝町としてどんな子を育てたいのか明確にし、それに合った統合等の決定が必要。教職員も同じ考え方であることが必要であると思うし、学校として魅力ある教育をしていかなければならない。

委員

地域の一人としてやっているので、統廃合してもともと学校があった地域が寂しくならないかなという気持ちがある。答申を提出して統廃合が決まる期間がどのくらいかかるのか、早め早めにアクションを起こした方がいいと思う。

委員

小貝小学校ですが、地域の人と密着して運営がなされている。統合され一つになると、地域密着でなくなる心配がある。ただ、この数字を見ると中学校でも40人くらいの人数になって、統合の在り方にも影響が出てくる。

統合の理由として1学年2学級を確保するとあるが、統合しても2学級確保できないので、その辺りも言葉をえていかなければいけないのでないか。

委員長

事務局修正は必要ですか。

事務局

統合は2学級を維持するためのものではないという形でよろしいでしょうか。

委員

何の施策も打たないとこのままになるということ。移住定住を進める等施策はあるので、やっていかなくては駄目だという意識を皆でもっていかなければならない。

市貝町に教育目標がないので、市貝町の教育の質を上げる教育をする必要があるのであれば教育目標をこちらに書いていただきたい。

委員長

事務局より質問内容を確認させていただきます。

事務局

質問の内容についてお話をさせていただきます。『当町の将来を展望し、児童生徒、教職員が安心して学べる魅力ある学校環境のこと。』理由として『町内小中学校

の児童生徒数の減少や施設の老朽化が進み、また、将来を担う子どもたちや教職員を取り巻く環境は日々変化しており、現在の施設や環境が子どもたちや教職員にとって、最適であると言えない状況となってきている。そのため、子どもたちが将来にわたり安心して学べる学校の適正規模・適正配置について検討し、今後のあり方を明らかにする必要がある。』と教育委員会より検討委員会へ諮問をさせてもらっています。

教育目標等については、今後の流れの話になってしまいますが、答申を教育委員会として受け、その中で、町として教育目標を方針に示したうえで、例えば統合が絡むのであれば、跡地利用の話や財政的な話、その他人口を増やす・維持するそういった施策を総合的に含めまして基本方針を作成する形になると思います。

本委員会では、そういったものをしっかりとするような答申をし、町がその目標等を設定したものを皆様にお示しして、その中でアンケートや住民説明会を行い、皆さまのご理解をいただいたうえで、様々なものを推進していくのではないかと事務局では考えているところです。

委員

市貝町は素晴らしい教育をやっているんだとほかの地域の方に知ってもらって、『こういう素晴らしい教育をやっているところに行ってみよう』と魅力ある教育をやるような設定をしていただきたい。どこの学校も一緒という時代ではないので、特色ある学校づくりをしていただく。そのためには、皆さんで変えないと変わらない。

委員

同じ方向に向かうのは難しいということがわかりました。減るものはしようがないのかなと思います。地域に根差す体験も必要であるが、その分の費用を教育に回すことで子ども達の教育を充実させる。住宅団地の誘致をしてもその一発だけで減っていってしまう。一回ここで生まれ育った子たちが、根差して子ども達を生んで育てていけるよう地域の中で循環できるというのが大切なではないかと思います。

委員

今後統廃合を行っていく中で、児童の学習環境や通学環境にどのような変化が起こるのか、未来像を明確にすると賛成に動きやすいのではないかと思います。

もう一つ、自分の地元の学校も廃校となっていましたが、障害者の支援施設として活用しております。

委員

1学級に満たないというのは驚きです。この子たちが小学校に上がるまで6年ほどしかないので統廃合やそれに合わせた教育方針など早めに考えていかなければならぬと思います。

委員

自分の進路を決めていけるようになった時、自分の町でどのように小学校・中学校が成っていくのかが分からないと、自分の思った進路に進めない子たちが出てくる可能性があることを考えさせられました。

大人のエゴではなく、子ども達がどのような将来を歩んでいくのか考えたうえで決めていければよいのかなと思います。

委員

日本全国でも人口が減ってきてるので、それに合わせて子どもの数も減っているの

だと思います。市貝町の場合は、このままいくと資料に出ているようにだんだん減っていくのだろうと思いますが、行政がそれなりの対策を取っていかなければいけないと危惧しています。結果的に小学校の数も統合して減っていくのはやむを得ないと 思います。

委員

下野新聞でも見させていただいたが、市貝の子どもの数が減っていくのは、新聞にも載るほどのことなので、腹落ちはしています。そうなると、小学校の統合はやむを得ないのかなと思います。

委員

今移住定住を頑張ろうと話にありましたが、例えば赤羽地区に住宅地を造成した時に「古びた小学校を見せられました。ただ、教育は頑張っています。」となった時に市貝町に家を建てたいと思いますか。車を20分走らせれば、去年できたばかりのゆいの杜小学校があります。どちらに住みたいですか？結局はこういうことなんです。学校が古いと移住定住にも影響を及ぼす。何とか増やそう維持しようというのは順番が逆だと思います。きれいにしない人は来ないと人を真剣に考えた方がいい。

委員長

これから執行部に考えていただくことになるかと思いますが、早急に対応していかなければいけない。全局的にいろいろな部局を巻き込んでやった方が良いと思います。この時、必ず市貝町の将来を考えながら良い施策をできれば良いですが、なかなか難しいです。ただこのまま放っておくと消滅する可能性が高くなる。

アカデミックな研究の話になると計算上は統合させてます。例えば、中学校であると、栃木北部広域連合のようにサンプルで計算しており、そうすると約37校ありますが、17校に通う環境としては同等になると出てます。まだ学問分野でやっているだけで現実に起こるかはわかりませんが、日本全体で人口が減る中でどうしなければいけないのかを考えなくてはいけない。移住定住もいいですが、取り合いになつたらしようがない。基本は、縮小していく前提で動かないと、これから先の施策がうまく回らなくなると思ってください。

委員会の冒頭でも言いましたが、今、生まれてくる子たちが、成人になる数は決まっています。その間に何をするのかを真剣に考えていただければと思います。大人の資源は、寿命が伸びたことにより増えています。逆に減った子どもたちのために、何ができるのかそこが鍵になるかもしれません。

委員

先生は何かいい案ありますか。

委員長

先手を打つのなら、中学校の更新時期に合わせて広域中学校とする。周辺の市町との市町村境界が出てくるのであれば、どちらかの町に寄せることあると思う。

委員

1つの町でホール等の施設を所有しているが、これからは市町間共有をしていく施策が必要になるのではないか。

委員長

必要だと思います。戦略的に残すものは残す。市貝町の若い世代がどの方向に働きに

出ているかを把握していかないと残すべき施設がわからないので、しっかり調査をして把握する。地域に残すことも重要ですが、ただそれが使いづらいものであったり、使ってもらえないなのでは、残しても意味がない。例えば、宇都宮方面に働きに出る人が多いのあれば、そちらの方面に施設を残した方がいいですし、逆に真岡方面に働きに出る人が多いのあれば、そちらに施設を拡充したほうが、人が増える可能性もあるかもしれません。

委員

市貝町はちょうど中間地点にあるので、人が増える可能性がある。ぜひそこをご指導いただきたい。

委員長

全体的なマネジメントになると思う。最低限マネジメントをしてそこからもっといい環境であったり、質を上げられる仕組みを作っていく。働き方は決まっているので、隣接市町から住んでもらう、または、施設を使ってもらう時に、市貝町としていい環境とは何を目指しているのか、そこを伸ばしていくような選択をすると町の可能性は広がると思います。

委員

広域連合と言えばごみ処理場等が思い浮かびますが、学校でも広域にまたがることは法律上許されているのですか。

委員長

これからです。立ち行かなくなっているのは目に見えている。どこかでやっているところはあるはず。その法制度がどうなっているのかは、まだ調べていないのでわからない。北海道の例だと、隣の中学校が50km先となると、小さくても絶対的に残さなくてはならない。それは、日光市の足尾でも起こっており、次の学校まで25kmあるため、学校を失くせない状況です。ただ保護者からは、中心部に通わせたいとの希望があり、失くしてほしいと声が上がっています。

委員

10年前は2クラスだったのが、今は1クラスになってしまった。若い女性が東京に流失してしまっている。スクールバスは、赤羽小が利用者も利用数も少なくもったいない。1校にするのであれば保護者の負担も考えてやらなくてはいけない。

委員長

劇的に改善するという案はないが、例えば最終的に少なくなった時、拠点をどこにするのか意思決定をした方が良い。そして、そこに住宅地を寄せていく。学校の更新はずっとそこでしていくと、市貝町の中心地が作られていく。市貝町全体の意思決定となっていくので、他の関連部局との連携が必要になってくるので、教育委員会部局だけの問題ではない。そうすると循環する社会に届くかもしれないが、そういう社会にシフトするのも50年程かかる。農林業をされる方が多いのであれば、そこを含めた将来像を考えるのが良いと思います。

よくあるのは補助金などをもらってきて、ドカッとやるのもパターンとしてあります
が、なかなか上手くいかない。

委員

市貝町はそんなに広い町ではなく、何かいいところや、職場も近いといったところを

議論しながら先生にお手伝いいただきたい。

委員長

この委員会は、「市貝町学校規模適正化検討委員会」として始まりましたが、この後答申をして市貝町全体で方針を出していただきたいということで、先程出た2学級のところなど事務局と相談させていただいて答申案を修正させていただいてよろしいでしょうか。

————異議なし————

委員

施設の老朽化や児童の減少により統合が必要であるとありますが、7ページの学校の位置で中央公民館付近というのは入れる必要はないのではないかと思います。災害のリスクや廃校舎の活用を考慮して位置を決定していくのほうが良いのではないかと思います。

委員

最初に中央公民館付近でと出てしまったので、それに引きずられてお話をしている。財源のことも考え、小中一貫校にするのであれば既存の学校を活用することは検討せざるを得ない。

委員

例えば、中学校を利用して、隣に新しい校舎を建設し元の校舎に小学校をつくるなど、統合のパターンによって色々な考えがあると思う。その中でポツンと中央公民館付近を入れるのはどうかと思う。

委員

場所については気になる部分になると思うので、ずばり中央公民館と書いてしまうのはどうかと思う。グラウンドなど既存の施設を有効活用できるようにとぼかすのが良いのではないか。

事務局

グラウンドや陸上施設など特定できる部分もありますので、修正するのであれば『既存の施設を有効活用も検討する』とする形でよろしいでしょうか。

委員長

こちらも事務局と相談させていただいて答申案を修正させていただいてよろしいでしょうか。

————異議なし————

————協議事項（1）終了————

5.その他

特になし。

6.閉会